

ホタルのニュースレタ

日本ホタルの会 2005/9 第34号

クロマドボタル幼虫の背板斑紋変異をめぐる この夏の新たな発見について

日本ホタルの会理事 小俣軍平

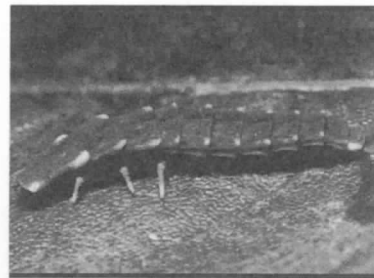
1 はじめに

少し専門的で馴染みの薄い話で恐縮です。この時期（9月）兵庫県以东のいわゆる「里山」の農道端や草むらで、夜空に輝く星の光のようにぼつんと発光している不思議な光がたまにみられます。（30年前には普通にみられたのですが…）これが、クロマドボタルの幼虫の光です。そこで、この幼虫の背板（背中）にある斑紋の変異に付いて要点を紹介し、またその分布を巡ってこの夏新たな発見がありましたので、お知らせいたします。

2 クロマドボタルの幼虫の背板斑紋

クロマドボタル幼虫の背板斑紋には、地域によって様々な変異がみられます。そしてその中でも次の二つの形が基本になっています。①を「全紋型」と言います。兵庫県東部以东から青森県の下北半島先端まで、県単位の広さでみればどこでも普通にみられます。

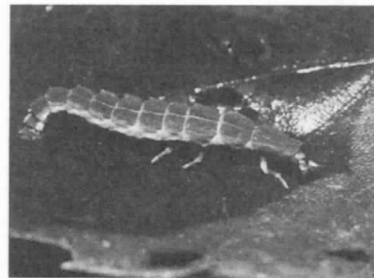
②は、背板に斑紋がありません。そのため「無紋型」と言います。日本列島の「糸魚



①背板に22個の斑紋（撮影 皆越ようせい氏） 模式図



川～静岡構造線」と「柏崎～千葉構造線」に囲まれたいわゆる「フォッサマグナ」地帯の中で、かぎられた所に棲息しているのが確認されています。



②背板に斑紋がありません（撮影 皆越ようせい氏）



模式図

クロマドボタル幼虫の背板斑紋の変異は、この二つの形（「全紋型」～「無紋型」）の間に、各地で多様な変異の進行形態が発見されております。また、それらを整理して、後述のようにこれまでに四つのグループの分布が発表されています。（今回はその詳しい内容までは、残念ながらスペースの都合で報告できません。）

3 クロマドボタルの棲息分布境界

クロマドボタルの棲息分布については、これまでの研究結果から、東は青森県から西は兵庫県までと言われてきました（大場、1996、「ホタル・人里・九州」）。しかし、それでは兵庫県のどの辺りになるのか、はっきりしていませんでした。ところが、一昨年从今年にかけて「兵庫県立人と自然の博物館」の学芸員、八木剛先生、それから、稲津賢和氏（本会の会員）・今城香代子氏・渡部太平氏（本会の会員）など、兵庫県・大阪府下の陸生ホタルの研究者の皆さん方の調査によって、兵庫県を北から南に貫く「由良川～加古川線」沿いであることが判明しました。



③図 クロマドボタルの分布境界線、点線より西がオオマドボタル、東がクロマドボタル

4 無紋型幼虫が兵庫県にも棲息していた

上記の分布境界調査の過程で今年の7月に、八木剛先生・今城香代子氏他によって兵庫県丹波市山南町からクロマドボタル「無紋型」幼虫が、新たに発見されました。前述のようにクロマドボタル「無紋型」の幼虫は、これまでいわゆる「フォッサマグナ地帯」の中にのみ棲息していると言われてきました。それが、この発見によって改められることになりました。

クロマドボタル幼虫の背板斑紋の変異は、これまで次のような四つのグループに分けられていました。しかし、このたび仮称「丹波型」がみつかったことにより、五グループとなりました。

- (1) 第一グループ（東日本型）
- (2) 第二グループ（フォッサマグナ型）
- (3) 第三グループ（関東山地型）
- (4) 第四グループ（中部・近畿型）
- ※(5) 第五グループ（仮称、「丹波型」）

今回は、この第五グループの変異の詳しい進行形態を報告するゆとりはありませんが、クロマドボタルの進化の過程と、本州における棲息域の拡大過程、日本列島の他誌との関わりなどの解明に大きく貢献する発見になりました。引き続きこのグループの詳しい棲息分布域の解明が待たれます。

東京のホタル

わしおとしこ

6月28日の4時30分、ホタル観察会のバスはJR青梅線河辺駅を出発しました。参加者30数名。わたしは「東京で野生のホタルが見られる」と期待に胸を躍らせます。小俣さんが書かれた「ホタルに観察地について」の文中に「おとぎ話に出てくるような出来事」とあったのが気になったからです。

岩蔵温泉「かわ村」で夕食を済ませて、いよいよ目的の野口さんのお宅に向かうために外に出たとき、大粒の雨。でもさすがホタル観察会。10分ほどで野口さん宅に着いたときには、やんでいました。

夜道を、まずゲンジボタル発生地へ。「ここが水路です」と足元を照らしてくださった野口さん。ほんと！「おとぎ話にでてくるやさしいおじいさん」という感じの方でした。

茶畑のかたわらのコンクリートのU字溝の中をささやかな水が流れていました。流れに沿って、ほんの数分歩んだとき、「あっ！」ゲンジボタルたちが茶畑の上を音もなく舞い、光を点滅させていました。わたしは息をのみました。そしてなぜか、つい2ヶ月前に他界した夫の名前を、胸の中で繰り返していたのです。あふれる涙をこらえて、立ち尽くしていました。半月前、多摩動物公園でホタルを観察したときには、なんともなかったのに…。やはりあの漆黒の闇のせいでしょうか。

ゲンジボタルの光は意思を伝える信号。わたしには夫の「元気出せよ」という信号に思えたのです。

帰宅してすぐに百科事典をひらきました。『ホタルが人間の靈魂の姿であるという伝

えは古くから日本や中国に多い。和泉式部の歌に「物思えば沢の蛸も我が身よりあくがれ出づる魂かとぞ見る」とある等々』。現代のように人工の灯りのない時代、ホタルの光はさぞ神秘に満ちていたことでしょう。わたしは普段靈魂など信じない生き方をしているつもりでしたが、あの瞬間だけ、古代人に近づいたのかもしれない。(私事でお許ください)

さて、話をもとに戻しましょう。次はヘイケボタルの発生地へ。ご自宅の敷地内に、ゲンジとヘイケのホタルが生息しているなんて！ 感嘆の言葉ありません。ほんとうにおとぎ話のようです。東京生まれ、東京育ちのわたしにとって、「東京のホタル」は誇り

です。

野口さんは、青梅市成木川で東京のゲンジボタルの保護のためにも長い間努力なさっていらっしゃいます。ご自宅前でホタルの発生経過を淡々とお話くださいました。まるでお孫さんの話をなさるみたいにうれしそうに。

奥様が運んでくださったじゃがいものおいしかったこと。ありがとうございました。これからもホタルたちをよろしく願います。

有意義な観察会を企画してくださった小俣さんはじめ皆さん、ありがとうございました。

わたしは元気をいただきました。

生き物はみんなつながって生きているのです。青い地球がいつまでも美しい星でありますように。

事務局からのお知らせ

シンポジウムについて

日本ホタルの会では、例年秋にシンポジウムを開催してまいりましたが、10年余を経てシンポジウムのあり方を見直す必要があると考えています。このため、次回シンポジウムは、事務局に開催地や開催時期、テーマなどについてさらに検討し、新しい形で実施することといたしました。開催内容の詳細がまとまりましたらご案内いたしますので、ぜひご参加下さるよう願います。また、シンポジウムの内容でご意見やご希望がありましたら事務局までお寄せ下さい。

ぐんま昆虫の森見学会のお知らせ

本年は、シンポジウムのリニューアルを進めておりますので、代わりの企画として、今夏オープンいたしました「ぐんま昆虫の森」の見学会を開催いたします。矢島会長が園長を務める同園は、広大な敷地に懐かしい里山が保全・再生されたもので、当会の会員のみなさまの活動の参考になると考えております。

- 日 時 2005年11月12日(土)
集 合 JR立川駅北口広場 8:00集合
行 程 立川(8:30出発)ー昼食ーぐんま昆虫の森ー立川駅(19:00頃着)
参加費 おとな4,000円 小学生以下2,500円
定 員 40人(先着)
申込み 氏名、住所、年齢、連絡先を明記の上、メールまたはFAXでお申込み下さい。
FAX 03-3328-7379 Eメール omata@nihon-hotaru.com
あて先 日本ホタルの会事務局「ぐんま昆虫の森」見学会係
締め切りは、2005年10月25日(火)まで。
ただし、定員となり次第締め切りとさせていただきます。
払込み 参加費には、昼食代、バス代を含みます。集金は当日。なお当日不参加の場合にはキャンセル料がかかりますので、ご承知おき下さい。

※下記ホームページでも紹介しています。ご参照下さい。

理事会報告

2005年7月23日、9月11日に理事会を開催しました。シンポジウムのあり方について検討がなされ、今秋の開催を見送り検討を継続することとしました。また、ぐんま昆虫の森見学会の実施を決定しました。

ホタルのニュースレター(第34号) 2005年9月30日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 矢島 稔

156-0041 東京都世田谷区大原2-17-6

ステーションプラザ代田橋410

(株)オーグラム内 日本ホタルの会事務局

TEL & FAX: 03-3328-7379

e-mail: omata@nihon-hotaru.com

URL: <http://www.nihon-hotaru.com>

印刷 システム印刷株式会社

191-0031 東京都日野市高幡1012-13

TEL: 042-591-1411 FAX: 042-591-7701



日本ホタルの会
JAPAN FIREFLIES SOCIETY